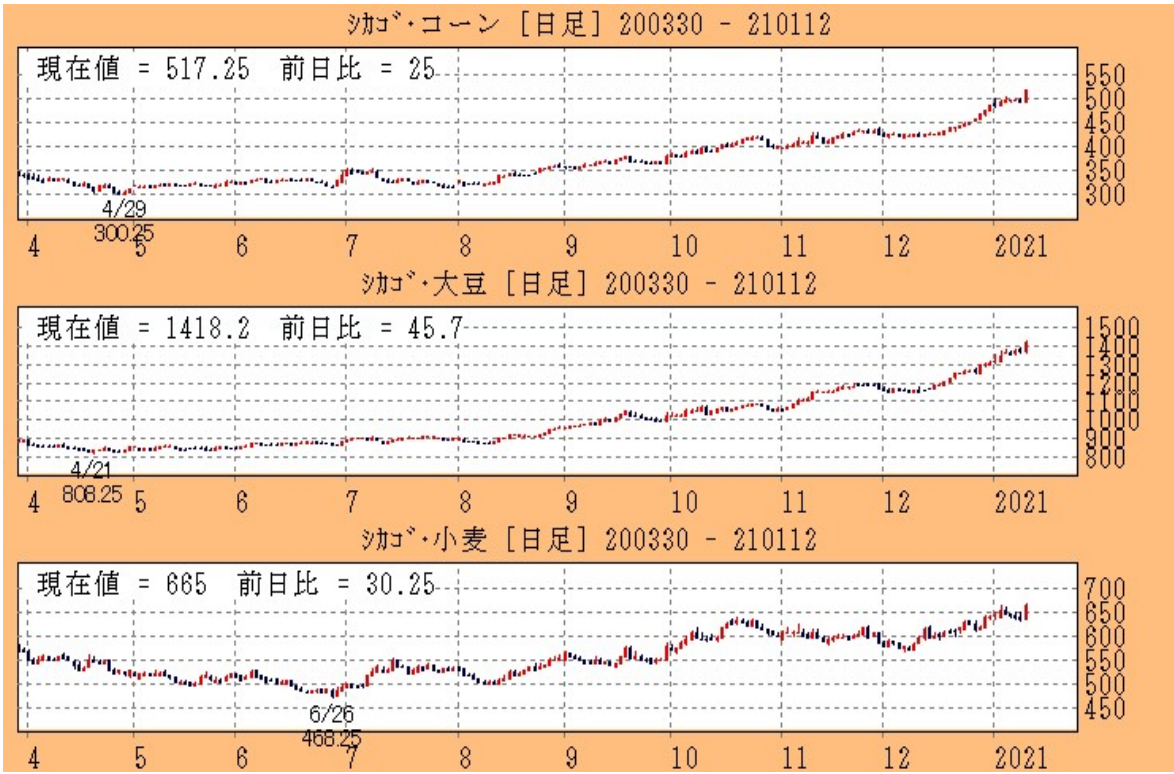
週刊穀物

世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシ、大豆は反発

発行日　：　2021/1/13



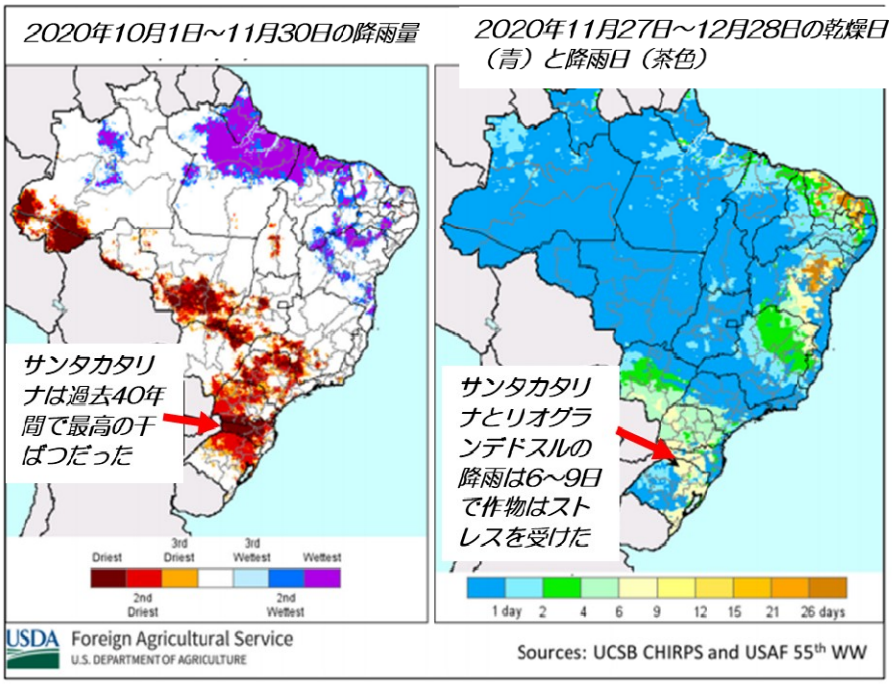
12日のシカゴトウモロコシ3月限は前日比＋25.00セント高の517.25セントと反発。取引レンジは489.25セント～517.25セント。米農務省がこの日発表した1月の農産物需給報告で、米国産トウモロコシの生産高推定と期末在庫予測を、事前予想より大幅に下方修正したことを受け、南米の減産懸念が根強いなか、一段の需給逼迫を見込む買いが膨らんだ。また、大豆が急騰したことも手掛かりとなって急騰し、25セントの値幅制限いっぱいまで上げ幅を拡大。その後も値を落とすことなく制限高に張り付いたまま引けを迎えた。ストップ高を受け、13日のトウモロコシ先物取引の値幅制限は40セントに拡大される。

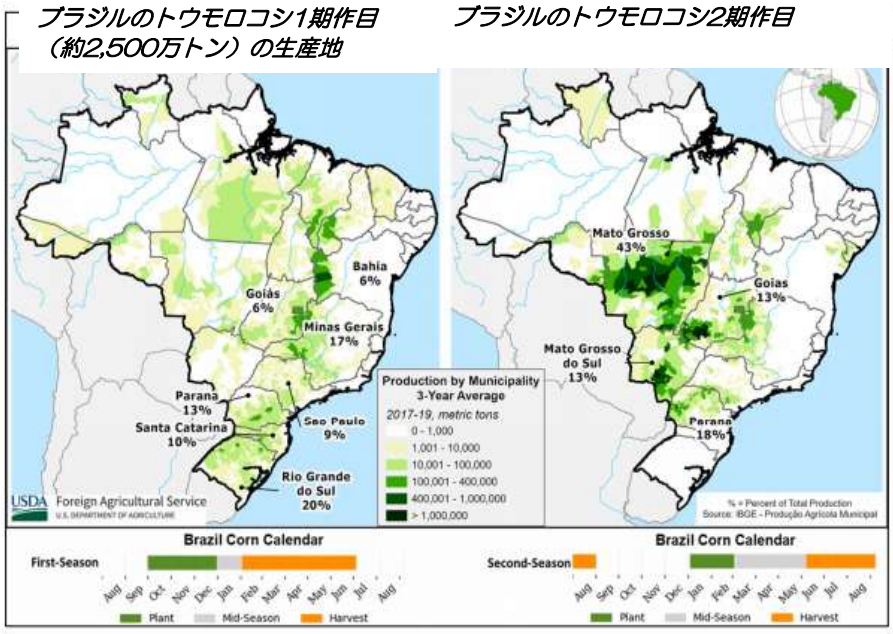
12日のシカゴ大豆3月限は前日比＋45.70セント高の1418.25セントと反発。取引レンジは1358.50セント～1428.25セント。前月発表時点で需給ひっ迫が懸念される状況にあった期末在庫率が、この日発表された米農務省の月例需給報告でさらに引き下げられ、在庫率は3.1%となり、危機的水準まで落ち込んでいる。これを受け需給ひっ迫に対する危機感が強まったことで急騰した。3月限は一代の高値を更新している。

COMMODITY INTELLIGENCE

Topics ブラジルのトウモロコシ1期作目が干ばつに遭っている

2020年のブラジルトウモロコシ1期作目は乾燥気候で影響をうけた





USDA はブラジルのトウモロコシ総生産量を過去最高の 1 億 9,000 万トンと予想している。前月の予想からは▲100万トン減（1%）だが、昨年の過去最高を7百万トン（7%）上回った。トウモロコシの第一期と第二期の収穫面積は、過去最高の 1,950 万ヘクタールになると予想され,昨年の1850万ヘクタールより＋100万ヘクタール増となっている。

単収はこれまでの最高だった18／19年度の5.77トン／ヘクタールよりは▲3%低い5.59トン/ヘクタールと予想されているが、昨年の単収よりは＋1%高くなっている。また過去5年平均の5.20トン／ヘクタールに比べると＋7%高い。

ブラジルのトウモロコシは一期作目が4分の1、二期作目（サフリンハ）が4分の3の生産量である。

ブラジル政府食品供給公社であるCONAB（Companhia Nacional de Abastecimento）によれば、昨年の1期作目の大部分は、9月から11月に植えられている。ブラジル農業省内の地域予測機関であるサン・エル・エル・シー・ジャパンによれば、作付面積は、415万ヘクタールと昨年より▲2%減だったという。

また2 期作目のトウモロコシの作付面積は昨年と変わらずの1380万ヘクタールであるという。

ただ、大豆の作付けが遅れ、トウモロコシの二期作目の植え付けが遅延する懸念が高まっている。

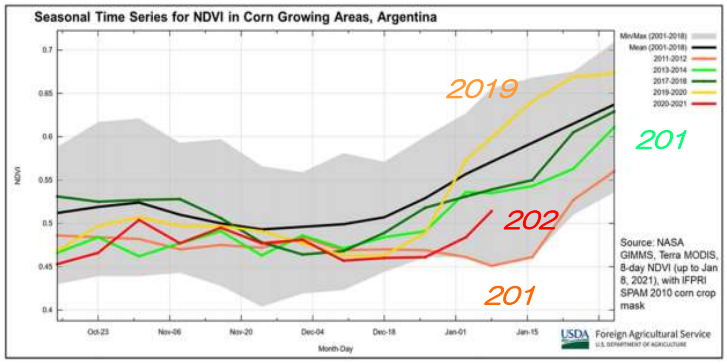
昨年の10月と11月、ブラジル南部と中部の一部の地域において、40年間で最も乾燥した2ヶ月間となった。

歴史的な1ヶ月間の少雨と降雨の遅れにより、作物にはストレスがかかり、リオ・グランデ・ド・スルと、サンタ・カタリナ州及びその周辺地域のトウモロコシの生育進捗に悪影響を与えている。この2つの州で一期作目の30%に相当する900万トンが生産されている。

12月には、断続的とはいえ、降雨があり、少し生育は回復している。現在、開花・受粉の段階にあり、一部の早い時期に植えられたトウモロコシは既に収穫されたものもある。また、マト・グロッソ州とゴイアス州の中央西部では、既にサフリナの作付けが開始されている。1月中旬以降により多くの地域で二期作目の作付けが始まる。

Topics アルゼンチンのトウモロコシ生産

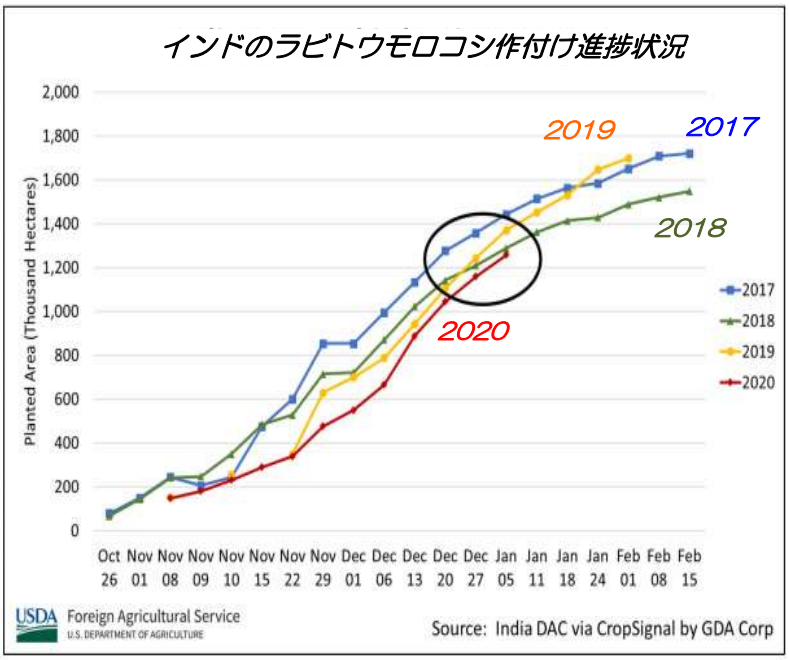
アルゼンチンのトウモロコシ生産は乾燥した天候で



ラニーニャ現象に影響を受け、乾燥気候が長引いているため、アルゼンチンの2020/21年のトウモロコシ作付面積は減少すると見込まれている。また、通貨の変動、インフレの継続のリスクがあることから、今後も作付けが遅れる可能性がある。トウモロコシの作付面積は610万ヘクタールと予想され、先月と変わらずだが、昨年よりは▲３%減と見込まれている。トウモロコシの生産量も、先月の予測から更に▲3%減の4750万トンと予想され前年比では▲7%げんとなる。単収は1ヘクタール当たり7.79トンと予想され、先月の予想より▲3%減、昨年より▲4%減となっている。衛星画像から得られた植生分析によっても、現在の状況は昨年を下回り、過去平均をも下回っている。

植物のストレス、限られた土壌水分、予想される低単収、投入コストの上昇により、アルゼンチンの農家は、今後の植え替えの決定を再検討する必要に迫られている。土壌水分レベルはコルドバ、サンタフェ、アントレリオスなど多くの地域で断続的な降雨と気温の上昇が続くものと思われる。

Topics インドのトウモロコシ生産



インドのトウモロコシは、カリフ（6月からのモンスーン期の作物）と、ラビ（11月の乾期の作物）の両方で栽培されているが、カリフが7割を占める。

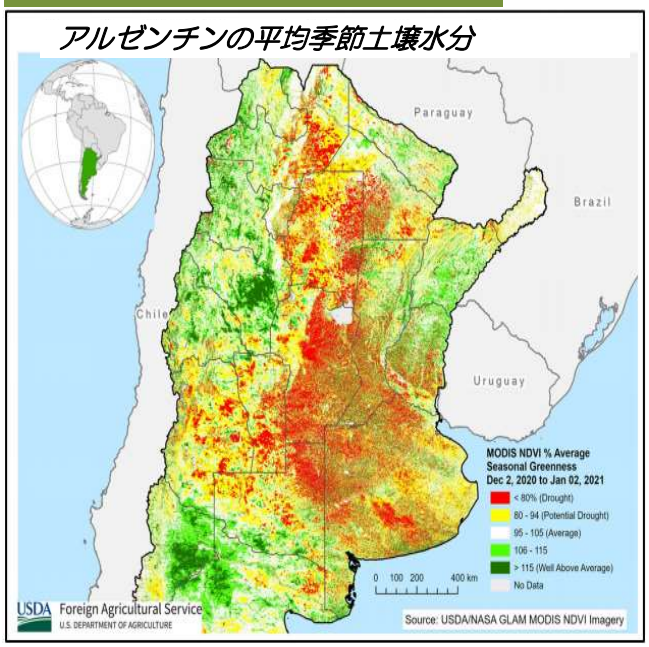
モンスーンが始まる6月にカリフ作物の植え付けが始まる。ラビ作物の収穫は11月に開始される。モンスーンが長引いたためラビの植え付けのための水分は十分である。貯水池はの水量は、容量の75%以上ある。

インド農務省の作付け進捗状況（2021年1月1日）によると、過去5年平均を▲7パーセント下回っている。タミルナドゥ州の南東部の生産地に季節遅れのサイクロンが訪れ、ラビ作物生産地にマイナスの影響を与えた。

テランガーナ州では、綿花の収穫が遅れ、また政府の規制もあって、トウモロコシの作付けが遅れているが、まだ、まだ1ヶ月ほど作付け時期は残っている。

COMMODITY INTELLIGENCE

Topics アルゼンチンの大豆生産



アルゼンチンでは、ラニーニャ現象の影響で乾燥状態が続いており、早植えの大豆が重要な時期に影響を与えている。後半に植えられた大豆は、土壌水分が十分でない。作付け以来散発的で不十分な量の降雨しかなく、土壌水分は大幅に枯れている。左の地図で12月上旬以降の緑の割合はは、劣悪な状況を示し、乾燥を表す赤い地域がアルゼンチン中央部を横断している。

アルゼンチンでは経済問題が引き続き農業に影響を及ぼしている。通貨ペソの価値は、パンデミックの流行中に相対的に低いままである。ドル建てで購入する農薬など農業投入資材価格が高騰し、それを購入するためにより多くのペソを必要としている。

在庫が多く、高額な輸出税の反動で、残った大豆の作付けが進まない。新年にかけて大豆の販売不振と圧砕量の低下が続き、船舶の一部は積み荷が無い状況となっている。

アルゼンチンの農家は、新しいトウモロコシ輸出政策にもかかわらず、セールスストライキを続けている。アルゼンチンの農家は、販売ストライキを引き起こしたトウモロコシの輸出停止を修正するという政府の決定にもかかわらず、作物の販売禁止を継続すると述べている。政府は、2ヶ月間の輸出停止を、国際市場に販売できる1日3万トンのトウモロコシの一時的な制限に変更した。しかし、この国の主要な農業グループは、新しい政策にも異議を唱えている

Topics 中国の大豆生産量は大幅に上方修正

中国の大豆は黒龍江省、吉林省、内蒙古省の北東部で5割の大豆を生産し、そのうち黒龍江省は約40%を占めている。その他の主要な大豆生産県には、中国北部の安徽省、河南省、山東省などがある。

20/21年の中国の大豆生産量は1,960万トンと推定され、前月の予想を＋210万トン増。＋12%増、昨年から＋8%増加となる。収穫面積は990万ヘクタールで、先月と比べて＋60万ヘクタール（＋6%）増加した。単収は1.99トン/ヘクタールで、先月から＋6%増、昨年比＋2%増、過去5年平均比＋7%増となっている。これらの変化は、中国の国家統計局の最新のデータを反映している。20年6月から7月にかけて、作物の生育と発達のピークを迎えた時期に好天に恵まれ。土壌の水分は、黒龍江省、吉林省、内蒙古省など主要な栽培地域では十分な量を有していた。収穫は予定通り完了し、収穫時期の東北地方と中部平原の天候は良好だった。

中国の2020/21年の大豆生産量は1,960万トンと推定されている。 過去5年間で大豆の作付面積が大幅に増加しているのは、中国政府が大豆粕や大豆油の旺盛な需要を受けて、大豆の輸入依存度を減らそうとする政策に転換したためだ。

農家はそうした政策に対応し、大豆の作付面積が大幅に拡大した。政府の政策には、州政府に年間の目標を設定するよう奨励され、大豆の生産目標の設定、種子開発と作物管理への投資の増加が図られた。また、トウモロコシへの補助金や価格を引き下げ、大豆栽培に対する補助金が変更された。

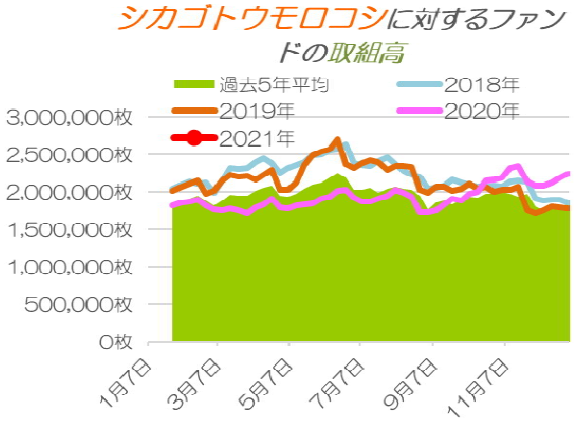
Topics 中国は遺伝子組み換えトウモロコシと大豆を承認

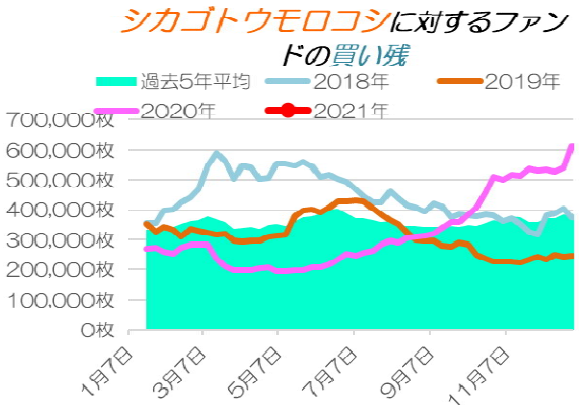
中国は、国内の遺伝子組み換えトウモロコシ、大豆作物の品種を承認。
中国は、北京のDabeinong Technology Group Co Ltd.によって生産された別の遺伝子組み換え（GMO）トウモロコシの品種とGMO大豆の安全性を承認した。

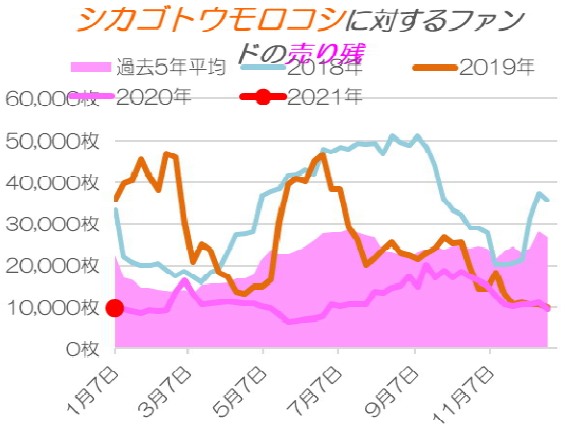
Topics シカゴトウモロコシに対するファンドの建玉

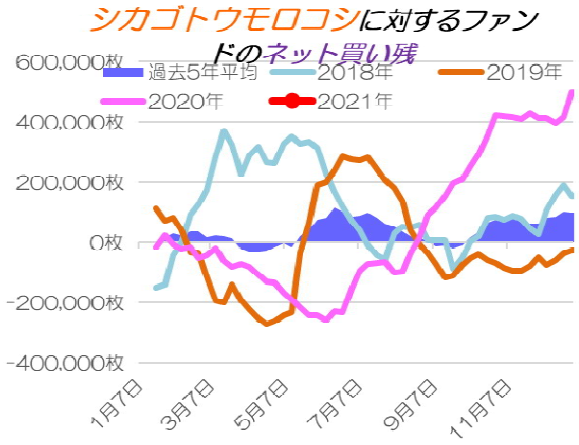
までの週	取組高	買い残	売り残	ネット買い残	増減	価格
9月1日	1,722,881枚	312,416枚	220,948枚	91,468枚	+73,129枚	¢358.00
9月8日	1,751,115枚	318,688枚	202,343枚	116,345枚	+24,877枚	¢361.75
9月15日	1,837,646枚	340,202枚	186,502枚	153,700枚	+37,355枚	¢366.00
9月22日	1,912,306枚	360,697枚	162,415枚	198,282枚	+44,582枚	¢369.25
9月29日	1,879,842枚	359,287枚	150,100枚	209,187枚	+10,905枚	¢364.75
10月6日	1,974,057枚	385,104枚	132,200枚	252,904枚	+43,717枚	¢385.00
10月13日	2,004,401枚	409,119枚	117,570枚	291,549枚	+38,645枚	¢391.25
10月20日	2,150,651枚	459,208枚	102,881枚	356,327枚	+64,778枚	¢408.75
10月27日	2,157,487枚	510,699枚	86,726枚	423,973枚	+67,646枚	¢416.00
11月3日	2,188,941枚	500,863枚	81,162枚	419,701枚	▲4,272枚	¢401.00
11月10日	2,325,019枚	516,274枚	100,286枚	415,988枚	▲3,713枚	¢423.00
11月17日	2,343,213枚	513,988枚	104,943枚	409,045枚	▲20,333枚	¢420.25
11月24日	2,136,443枚	537,543枚	108,165枚	429,378枚	+14,740枚	¢432.50
12月1日	2,078,871枚	530,117枚	115,479枚	414,638枚	+2,326枚	¢420.75
12月8日	2,089,840枚	533,085枚	120,773枚	412,312枚	+14,917枚	¢419.75
12月15日	2,117,529枚	525,177枚	127,782枚	397,395枚	▲20,892枚	¢424.75
12月21日	2,191,529枚	538,939枚	120,652枚	418,287枚	▲81,744枚	¢440.00
12月29日	2,243,733枚	613,554枚	113,523枚	500,031枚	+81,744枚	¢466.00
1月5日	2,379,202枚	630,820枚	110,178枚	520,642枚	+20,611枚	¢491.75
前週比	+135,469枚	+17,266枚	▲3,345枚	+20,611枚	▲61,133枚	＋¢25.8
2か月前比	+190,261枚	+129,957枚	+29,016枚	+100,941枚	+24,883枚	＋¢90.8

1月5日のシカゴトウモロコシの買い残は前週から＋1万7266枚増加、売り残は▲3,345枚減少、ネット買い残は＋2万611枚増加して52万⑥42枚となっている。









今後の予想

シカゴトウモロコシ価格は再び上昇している。1月の需給報告で生産量と期末在庫予測を大幅に下方修正したためだ。通常1月の需給報告はその穀物年度の最終的な数字を示すもので、大幅な変更はなく、最後の確定的数値となるものである。
筆者も、まさか1月の需給報告で大きな変化があるとは思っておらず、このレポートを書き終えてから価格の値上がりの要因がそれであったことに気付いたが、需給報告の分析は来週にすることとした。全く予想していなかったことである。
理由は何であろうかもう少し情報を見てみたい。
一方南米の天候は上述のように、ラニーニャの影響を受けて干ばつが続いており、ブラジルでは大豆の作付遅れからトウモロコシの生産量の7割を占める二期作目の作付けが遅れている。恐らく収量に影響が出るものと思われ、南米の生産量は予想よりも少なくなることであろう。

一方中国の大豆の生産量は上方修正されており、こちらは米国からの好調な輸出に影響が出るかもしれない。これも輸出状況をWatchしていきたい。トウモロコシや大豆の需給は荒れ模様である。

ご案内

You -Tubeで金や原油の動画解説中

毎週月曜日午後8時　Gold TV netにて金やプラチナ・原油の解説をYou Tubeの動画で近藤 雅世と小針秀夫が行っております。サイトは『Gold TV net』検索ください。*https://gold-tv.net/*

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス （以下「COMMi」という） が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっておらず、また、いかなる責任を持つものでもありません。
本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。
本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正･加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。
COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。
本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。
本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。
COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：
株式会社コモディティー インテリジェンス4東京都中央区日本橋蛎殻町1丁目11-3-310
会社電話： 03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス： kondo@commi.cc